

平成24年度第5回キッズ・モニターアンケート報告書

子どもの育ち推進課は、子どものための相談電話「こどもほっとダイヤル」の今後の運営に役立てるためにアンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

アンケートにご協力くださったキッズ・モニターの皆さん、ありがとうございました。

【アンケート概要】

1 アンケート実施期間

平成24年11月12日から平成24年11月27日まで

2 意見募集の結果

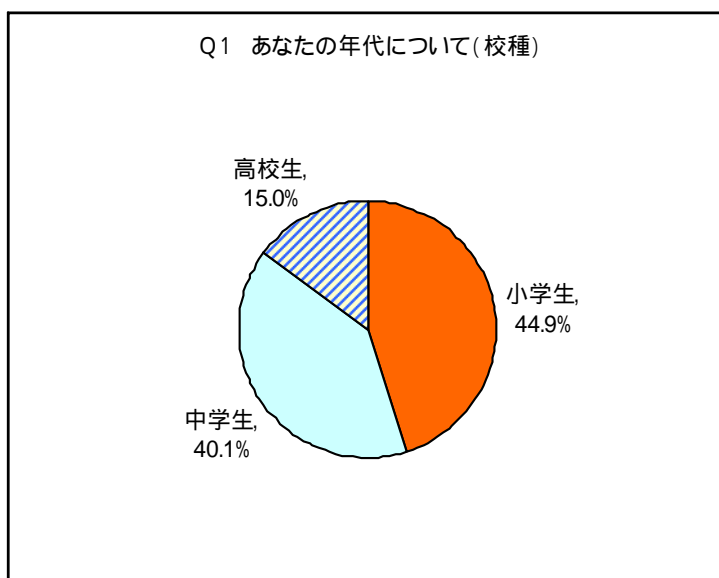
対象者数 380人

回答者数 207人(回答率54.5%)

【アンケート結果】

Q1 あなたの年代について

あなたにあてはまるものをえらんでください。



回答者207人の内訳は、小学生93人(44.9%)、中学生83人(40.1%)、高校生31人(15.0%)でした。

Q2 相談相手

あなたが、こまったことやなやみがあるときに、一番に相談する人はだれですか。

回答者全体では、母親(43.5%)、友だち(33.3%)が多く、次に「だれにも相談しない」(9.2%)でした。また、祖父母や塾・クラブ、地域の人、インターネットを回答した人はありませんでした。

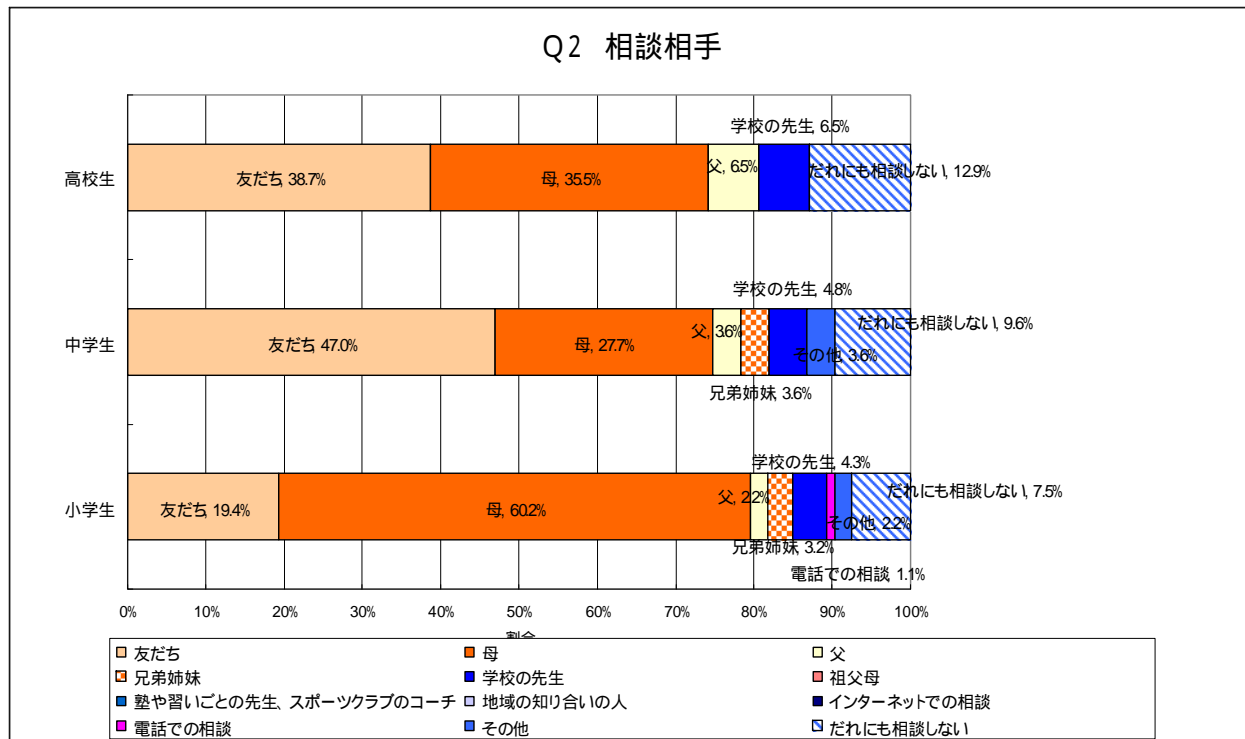
校種別に見ると、母親と友達の割合に違いが見られます。

小学生にとっては、母親が圧倒的に一番の相談相手で6割以上を占めました。

中学生の一番の相談相手は、友だち(47%)で、次に母親(27.7%)でした。

高校生では、友だちと母親がそれぞれ4割近くを占めます。父親への相談は、小中と年齢があがるにつれて増加しています。一方、小学生・中学生に見られた、学校の先生への相談が、高校生にはありませんでした。

「だれにも相談しない」という回答は、年齢が上がるにつれて増加しています。

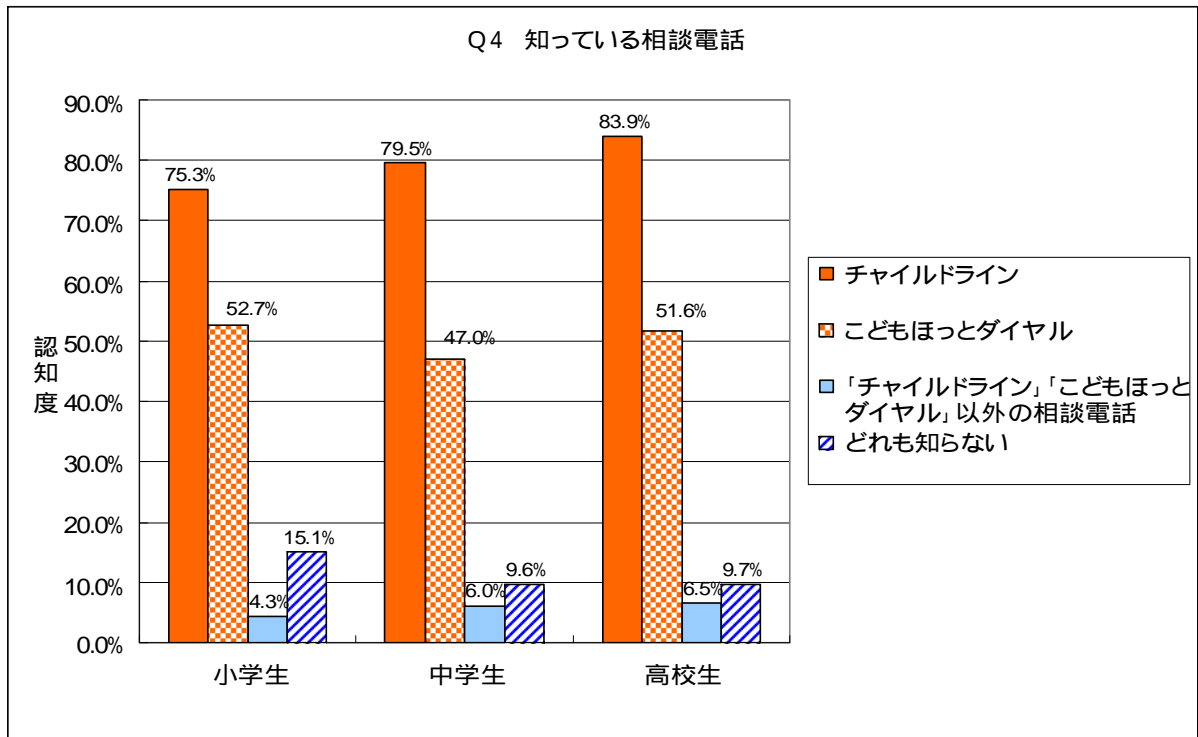


Q3 相談しない理由
 Q2で「だれにも相談しない」と答えた人にききます。だれにも相談しない理由を教えてください。(自由回答)

19人から回答を得ました。その内容を分類すると、信用できない、勇気がない・怖い・恥ずかしいの2種類の回答が多い結果でした。他には「自分で解決する」「面倒」という回答がありました。

Q4 知っている相談電話
 あなたが知っている、子どものための相談電話を教えてください。

どの校種においても、チャイルドラインの認知度は高く、8割前後の人に知られています。一方、こどもほっとダイヤルは半数にとどまりました。どの相談電話も知らないと答えた人の割合は小学生がもっとも高くなっています。



Q5 かけたことのある相談電話

あなたがかけたことのある、相談電話を教えてください。

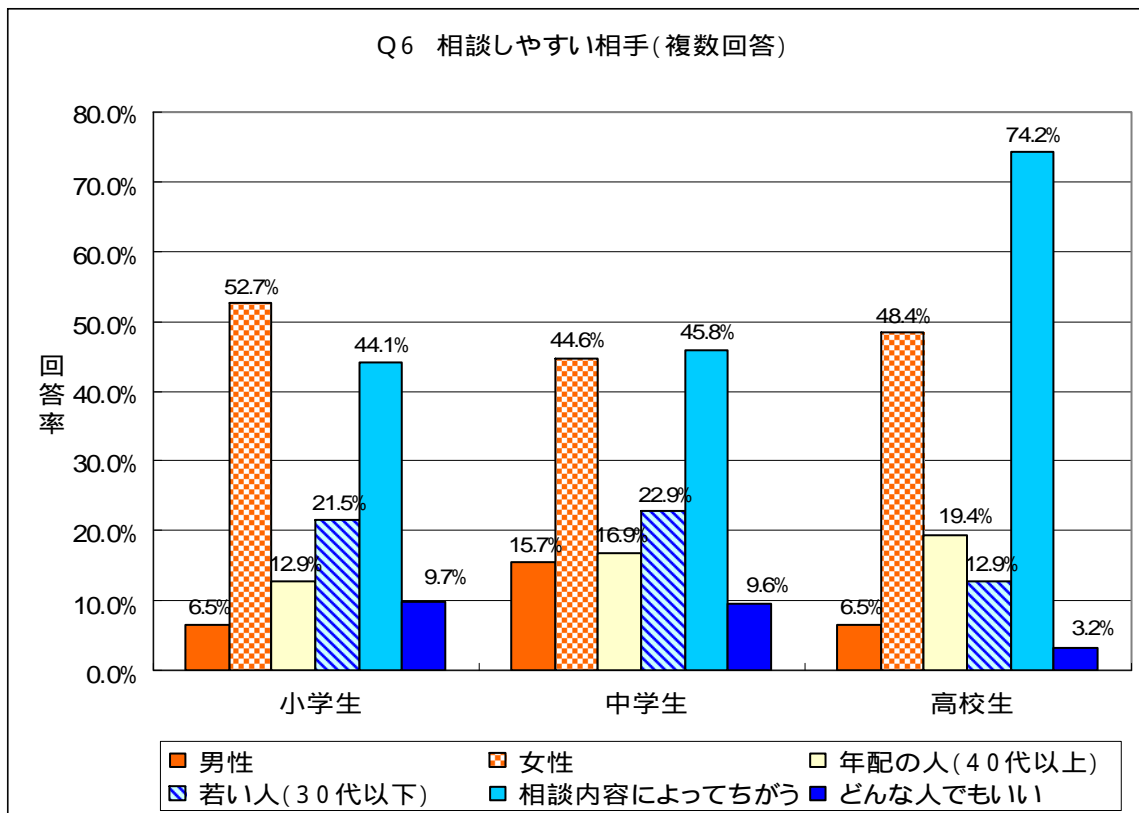
チャイルドラインにかけたことのある人は3人、こどもほっとダイヤルには2人であり、電話をかけたことのない人が177人と、ほとんどの人が利用していないという結果でした。

Q6 相談しやすい相手

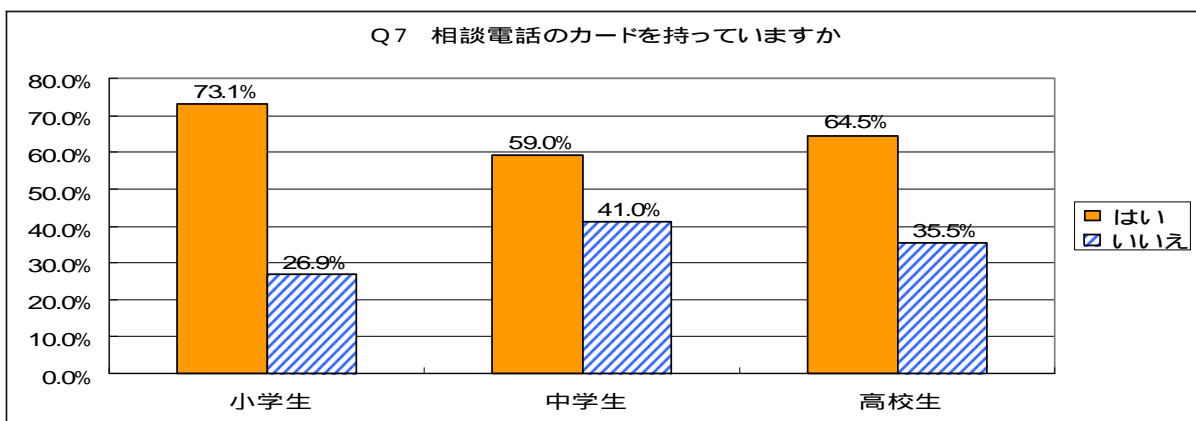
あなたは、困ったことや悩みがあるときに、相談電話の相手がどんな人なら話しやすいですか。あてはまるものをすべて教えてください。

「相談相手は、相談内容によってちがう」という意見がかなり多い結果でした。一方、「どんな人でもかまわない」という人は、8.7%でした。

性別で見ると、女性を選んだ人は約半数であるのに対し、男性を選んだ人は1割でした。また年齢については、校種により違いがでており、小学生と中学生は比較的若い人が、高校生は、40代以上の年配の人が望まれているという結果でした。

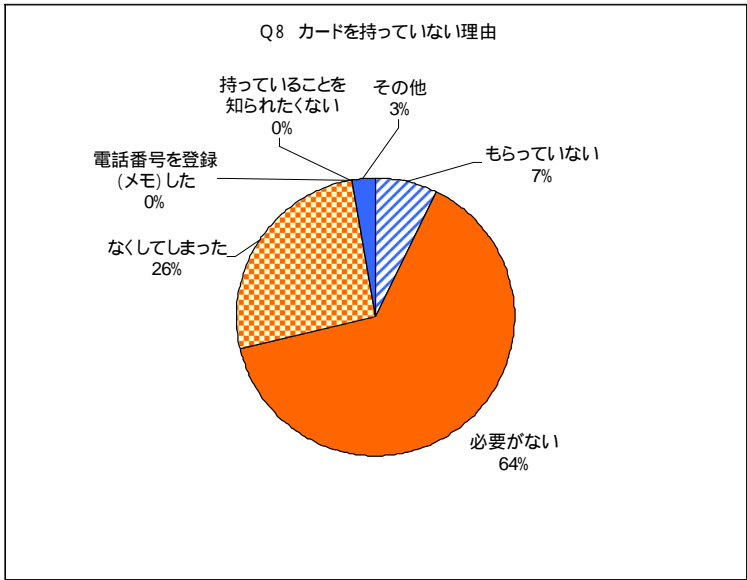


Q7 相談電話カード
 あなたは、子どものための相談電話の電話番号が書いてあるカードやマグネット、チラシなどを持っていますか。



どの校種でもカードの保有者が多い結果でした。とくに小学生は73%の人がカードを持っていました。

Q8 カードを持っていない理由
 Q7で「いいえ」と答えた人にききます。相談電話の電話番号がかいてあるカードなどを持っていない主な理由をひとつ教えてください。



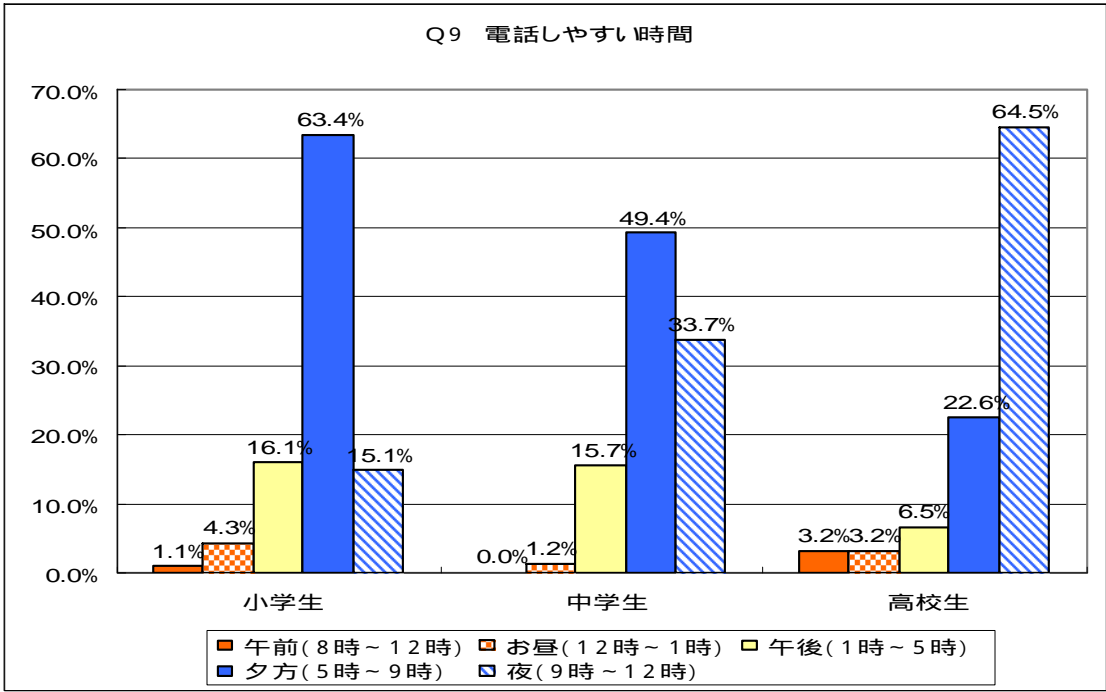
カードを持っていない理由の多くは、「必要がない」と考えたからでした。

校種別に見ると、小学生と中学生は「なくしてしまった」人がそれぞれ3割程度でした。高校生では、「持っていない」という11人全員が「必要がない」から持っていないという回答でした。

Q9 電話しやすい時間
 あなたが、平日の月曜から金曜日のあいだで、相談電話に電話するばあい、一番電話をかけやすい時間はいつですか。

校種別に見ると、小学生・中学生はともに夕方（5時～9時）が、もっともかけやすい時間となりました。

一方、高校生では、夜（9時～12時）が一番かけやすいという結果でした。



【まとめ】

今回のアンケートの結果から、子どもたちに利用しやすい・話しやすいものにしていくためには以下のような課題がわかりました。

- ・ほっとダイヤルの認知度は半数。
- ・「悩みによって話す相手が違う」という意識の子どもにとって、どういった人が相談電話に出るのが分からないので、電話をかける気にならないと考えられます。
- ・誰にも相談しない理由として、「信用できない」とか「勇気がない」という回答から、相談電話は、秘密を守ること、基本は自分の力で解決することへのサポートであること、匿名でも良いことを知っていただくことが大切です。
- ・高校生のかけやすい時間は、小学生中学生と違い、遅め（夜9時から12時）であること。

以上の点をふまえて、相談電話がもっと使いやすいものなるよう検討してまいります。

「こどもほっとダイヤル」は、平成23年2月に開設され、ようやく1年が経過したところです。もし、子どもたちが、相談したいけれども身近な人には話せないという状況になったとき、「こどもほっとダイヤル」をおもいだしてほしいと考えています。そのときのためにも、継続して「こどもほっとダイヤル」の周知を行っていきます。

キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。